

2012年 8月26日・東京民報「本」欄では

原発事故後の怒りと願い

「脱原発・自然エネルギー 218人詩集」

東京電力福島第一原子力発電所の炉心溶融事故を受け脱原発、自然エネルギーへの転換をテーマにした国内外の詩人218人によるアンソロジー詩集（選集）がまとめられた。

所収の約460点の詩は、原発からの撤退を求める多くの日本人の理性の声を発信している。詩人として既に名を知られた人、子どもを育てながら思索する人、福島の詩人などそれぞれが、置かれた状況から言葉を紡ぎだし、伝えている。

本書は英語版と日本語版の合体版で、英語版タイトルは「さようなら原子力 ようこそ再生可能エネルギー」である。再生可能エネルギーをテーマにした作品は興味深い。

「都庁詩をつくる会」でも活動してきた青木みつお氏は詩『ドイツで』で、「うらやましいのは／彼らが地域ごとに必要可能な方法を生みだしていること／風に吹かれているだけでは／未来はつくれませんね／この国でも（略）／新しい歴史の流れに／新しい漣さざなみが見えてきた／」と希望を見据えた。

また、アメリカの詩人スティーブン・トスカーは詩「福島で眠れない」で「毎晩眠れないので考えざるを得ない／死者たちの名前を全部調べたのでー／行方不明の妻の乳房を思わざるを得ないー／」と福島の苦しみに心を寄せている。

原発事故後の日本で、人々の心に滾こんこん々と湧く願い、怒りに満ちた良書だ。11日に行われた出版記者会見でコールサック社の鈴木比佐雄代表は「平和思想を文芸書の形で世界に発信することで、再び起きかねない原発事故を食い止めたい」と話した。

と紹介されています。